第５講　キャリアステージに対応した中学校教諭に求められる資質能力の構造化

【学習到達目標】

・キャリアステージに対応した中学校教諭に求められる資質能力を説明できる。

１．キャリアステージに対応した中学校教諭に求められる資質能力の構造化

中学校教諭として不易とされる資質・能力と新たな課題に対応できる力並びに組織的・協働的に諸問題を解決する力を中心にキャリアステージに対応した中学校教諭の資質能力を明確化し，講座の学習目標の分析と構造化を図り，資質能力とのカリキュラムマップを作成するとともに各講座のタキソノミーテーブルについて考える。

小中連携教育コーディネータ養成は，主に中学校教諭普通免許状所持者で，基礎資格となる免許状を取得した後，当該学校における教諭等として在職年数が３年以上の方を基本的に対象としている。

従って，３年以上の教員の経験があるということは，岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標　改訂版【中学校】における【資質向上期】（令和３年 10 月）が適切である。この指標を各科目と関連付け，資質能力のカリキュラムマップを作成することにより，資質能力の構造化を図る。

この指標における【資質向上期】を基本として，小中連携教育コーディネータに必要な資質能力を示すと次のようになる。

（1）学習指導

①学習指導要領の目標や内容，評価の観点等を踏まえ，ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。

②小・中学校９年間の系統性，生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。

③教科の指導内容を適切に理解し，ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。

④教科の専門性を踏まえて，生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。

⑤評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し，次時や次単元の指導を改善することができる。

⑥適切な授業評価を行い，継続的な授業改善を行うとともに，自己の専門性向上に努めることができる。

（2）生徒指導

①進んで声をかけ，共に活動をする中で，生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。

②生徒の行動とその背景にある思いを把握し，共感的に理解した上で，個に応じた指導を行うことができる。

③問題行動等を早期に発見し，学年職員等に相談して迅速に対応することができる。

④関係職員と共に生徒の状況を共有し，適切な指導方法を判断して対応することができる。

⑤生徒一人一人が目標をもち，計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。

⑥生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど，教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。

（3）経営・分掌

①担当する校務の役割を理解し，責任をもって行うことができる。

②学校全体を見渡し，課題を改善しながら校務を行うことができる。

③他の教員等のよさに学び，相談・協力することができるとともに，保護者との連絡を密にし，望ましい関係を築くことができる。

④組織の一員として，他の教員等と声をかけ合いながら，協力して取り組むことができる。

⑤生徒の安全や個人情報の重要性を理解し，「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。

⑥事故等の発生時や未然防止について，場面に応じて迅速に行動することができる。

（4）特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応

①一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し，ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。

②多様性を尊重し共に成長する集団づくりや，一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。

（5）ICT や情報・教育データの利活用

①授業や校務等に ICT を活用でき，生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。

②ICT を効果的に活用した授業実践等を行い，校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため，教育データを適切に活用することができる。

（6）インストラクショナルデザイン指導力

（インストラクショナルデザイン，研修成果の評価，ワークショップ，教育リソース）

①自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。

②インストラクショナルデザインの第 1 原理の観点から，現実に役立つ自分の学びを設計できる。

③e-Learning により学習がどのように支援されているかについて，研修以外の学習支援方法を含んで，事例を挙げながら説明できる。

④研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき，研修の評価・改善を計画することができる。

⑤研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。

⑥全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

現在，資質能力というコンピテンスの育成を学校教育における広義の学力の根幹に置くように学習指導要領では位置付けている。知的な面として，安定的な認識的把握としての知識（と操作する際の技能）として，また物事について考えていくプロセスとしての思考として捉える。動機づけ的推進する面として，学びに向かう力を置いている。

それは研究面では認知的な力と非認知的力（社会情動的スキル）としてとらえられるようになった。資質能力は教科内容に応じて異なる形で具体化される。それを教科等の「見方・考え方」としている。教科等の単元において，その目標はより長くは見方・考え方へ，さらに長期には資質能力へとつながるので，そのことを意識して学習目標を考えることが重要である。

資質能力はコンピテンスとしての内的傾向・態度・能力であり，教科を横断して育成されるものである。教科の内容（コンテンツ）は学ぶ順番を想定した系統性により着実に積み上げることを目指すものである。その繋がりを明示することにより，コンピテンスとコンテンツとがともに支え合う関係により学ばれる。

社会における問題解決はその両面を必要とする。内容があって解決できるが，コンピテンスが

備わって新たな学びを通しての解決が可能となる。その双方はどちらが時間的に先後するのではなく，子供時代を通してともに相まって学ばれていくのである。

この小中連携教育コーディネータの養成カリキュラムは，資質能力を構造化し，コンピテンスとコンテンツとがともに支え合う関係により学ぶように構成してある。この構成化されたことによりコンピテンスとコンテンツが繋がり合い，相互に関係し合い，ともに支え合う関係により“新たな学びを創造”していくことができる。

3．タキソノミーテーブル

タキソノミーとは，本来，分類学を意味し，教育学で用いるときには授業で達成すべき教育目標を明確化し，その機能的価値を高めるための道具として開発された指標のことである。ここでの教育目標とは，「教材や授業活動を設計する指針」を意味し，また「教育実践の成果を評価する規準」でもある。教科のカリキュラム開発において改訂版ブルーム・タキソノミーを活用することで，開発した教材や学習活動が教科に係る知識の習得の状況や教科に係る思考力のどのような働きを表しているかを評価する際に有効であるといえる。

図 5-1　改訂版ブルーム・タキソノミー

改訂版ブルーム・タキソノミーでは，カリキュラムの教育目標を，どのような性格の知識（知識次元／内容的局面）の習得を目指しているのか，またその知識をどのように認知させようとしているのか（認知過程次元／行動的局面）の，二つの局面に分けて検討することになる。

この認知過程次元／行動的局面では，知識を学習者がどのように認知して処理するのかに着目して，その方法を分節化している。そこでは，その行動的特徴によって，「記憶する」「理解する」「応用する」「分析する」「評価する」「創造する」の６つのカテゴリーを設定している。ここに見られる各カテゴリーは，複雑系の原理に基づいて，単純なものからより複雑なものへと排列されている。

認知過程次元／行動的局面のカテゴリーのうち，後半の「分析する」「評価する」「創造する」の三つのカテゴリーは高次の認知過程として位置付けられる。探究はこの段階に該当する活動である。

教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザインのタキソノミーテーブル

今回の講座においては，各講に学習到達目標並びに課題を設定している。これらの課題を表 5-1 のタキソノミーテーブルに分類する。このように，改訂版ブルーム・タキソノミーという分光器を通してカリキュラムを分析するならば，カリキュラムの教育目標では，どのような性格の知識の習得を目指しているのか（内容的局面），またその知識をどのように認知させようとしているのか（行動的局面）の，それぞれについて可視化し，カリキュラム開発者や授業者以外の第三者に説明することを可能にするという特徴を有している。

表 5-1　タキソノミーテーブル

①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
再認 再生	解釈，例示 分類 推論，比較 説明	実行，遂行	比較，組織，結果と原因	チェック 判断	生み出す 計画できる，汎化
書く，暗唱する 組み合わせる 辞書・ネットで調べる	説明する 他に例える 要約する	道具や方法を選ぶ 実験や実演で試す プレゼンする	他の結果と比較する 基準に照らして考察する 図やグラフを組み合わせる	良否を判断する 優先順位をつける 採点・審査する	解決案を考案する 解決策の実行を管理する 解決システムを設計する

課　題

1．キャリアステージに対応した中学校教諭に求められる資質能力を説明しなさい。

2．キャリアステージに対応した中学校教諭に求められる資質能力は，どのような活動によって向上できるかについて具体例を挙げて説明しなさい。

3．キャリアステージに対応した中学校教諭に求められる資質能力について，自己をメタ認知し，どの部分が不足しているのか，その不足をどう補うのかの方法を説明しなさい。